

岡山の更新をはじめ、各大学での開発

将来の超大型望遠鏡の開発の基礎、学生教育の現場

研究、開発で全国の大学の協力

新岡山がそのための一つの拠点に

並列・乱立で終わらない

大学教育、大学院教育、もっと広く科学普及活動

新岡山をはじめ、場合によっては全国の大学天文台で
実習・研究を展開、たがいに相互補完

以上の活動の成果報告会などを定期的に

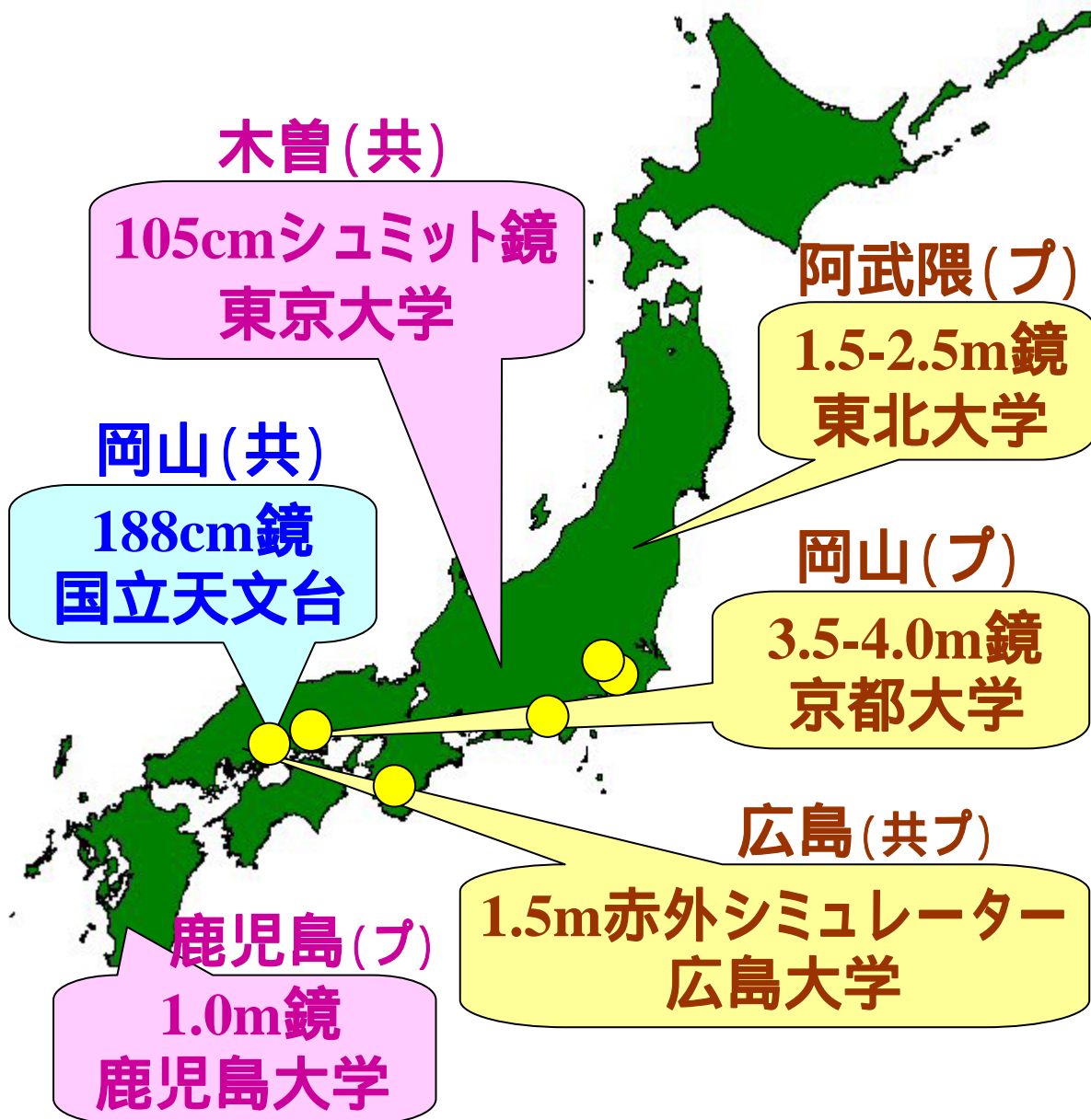
地方、小機関(に限らない)での小規模研究の支援

活動資金、報告会の旅費

国立天文台からの資金的援助(分野全体を育てるために)

(光天連からの要望として)

■ 稼動中(NAOJ) ■ 稼動中(大学) ■ 計画中(大学)



海外サイト

ハワイ(共)

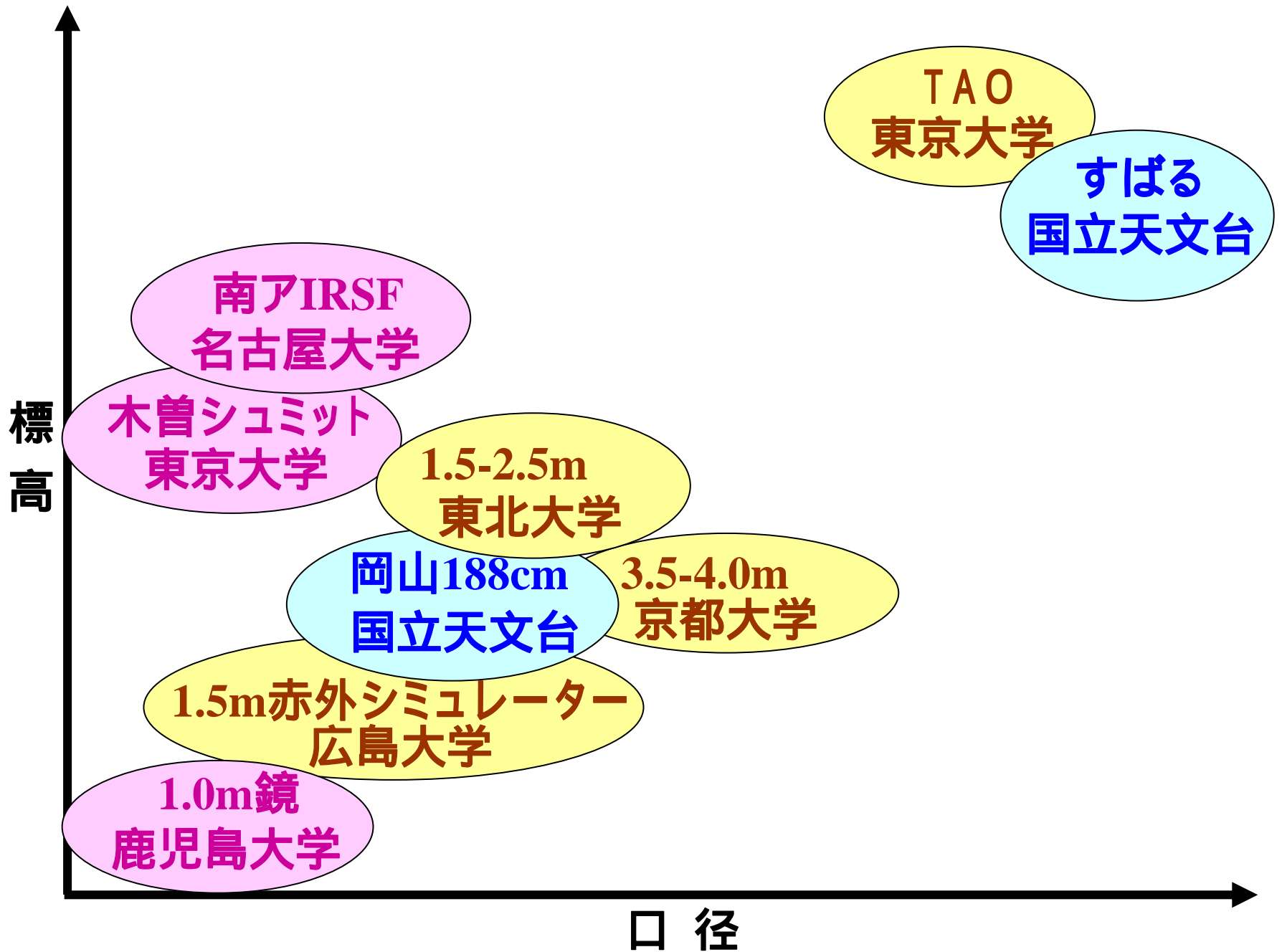
すばる
国立天文台

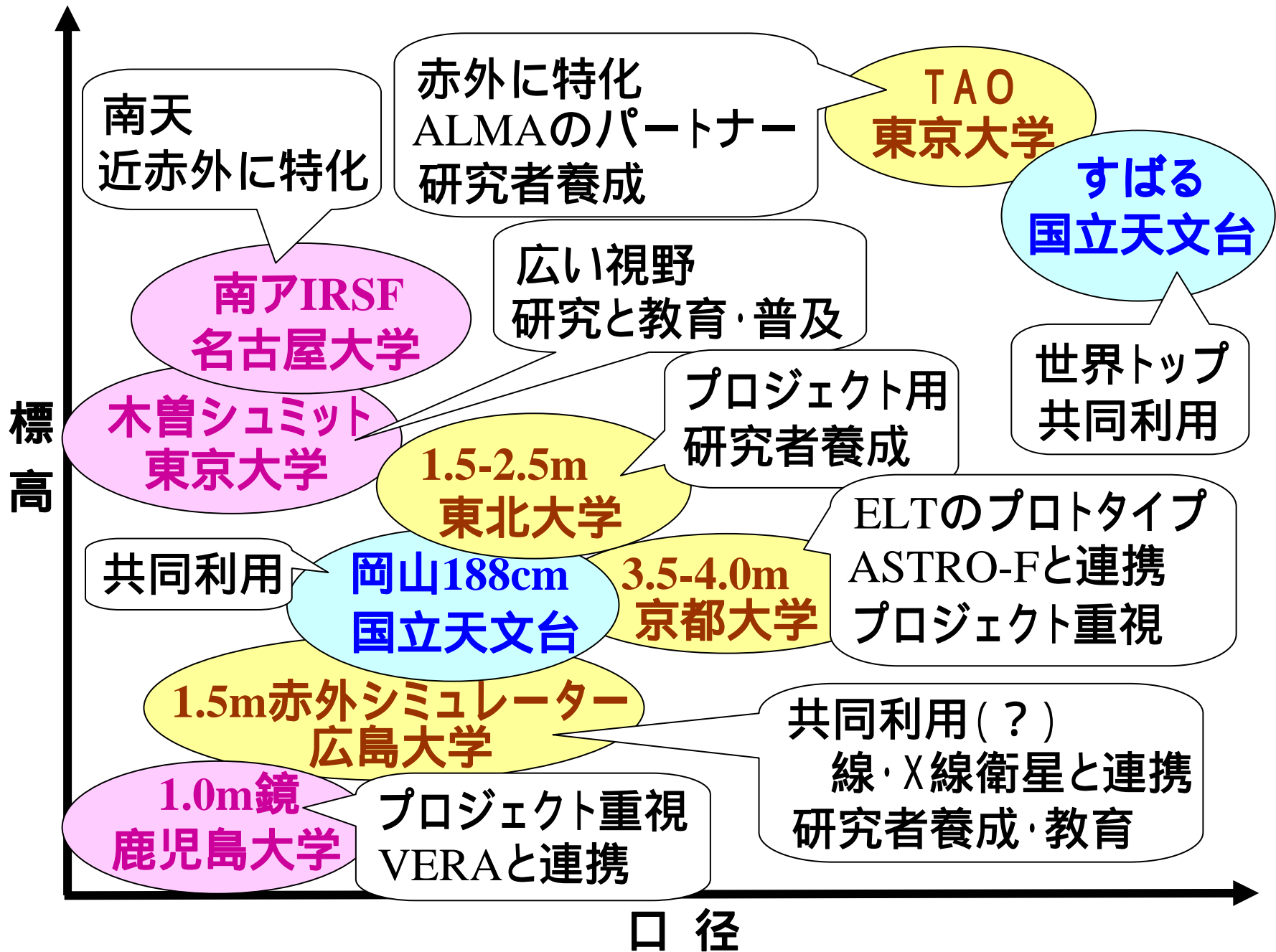
アタカマ(プ)

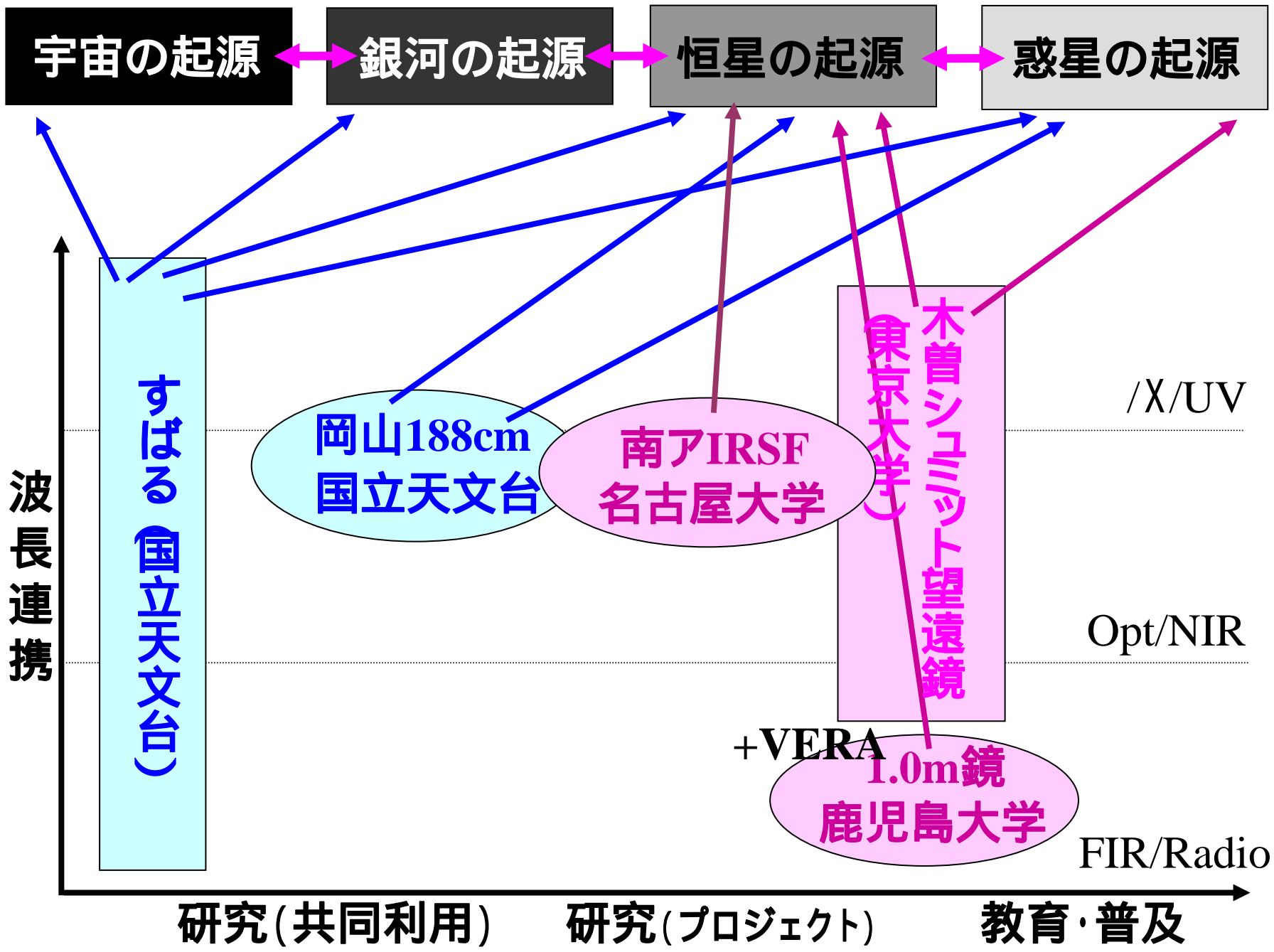
TAO(6m)
東京大学

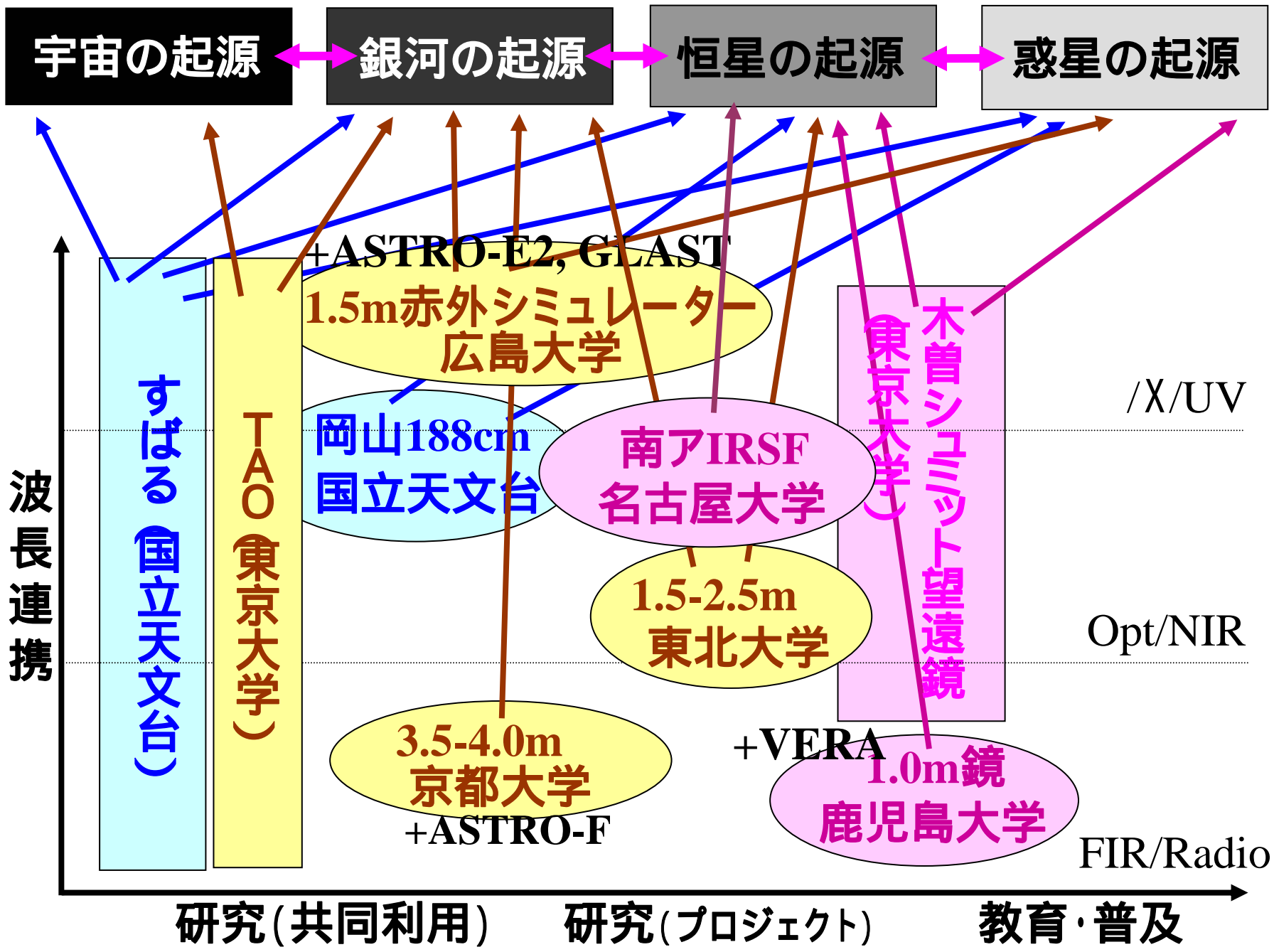
南アフリカ(プ)

1.4m鏡
名古屋大学









議論のまとめ

1. 国立天文台は引き続き、大学の基盤強化のために資金的援助をする用意がある。
2. 天文グループが各大学内で大きな存在感を持つことが、以前にもまして大切になってきた。そのためのあらゆる努力をするべきである。
3. 予算規模の大きな計画は、大学内で支持を取り付けると同時に、計画どうしの関連づけもさらに必要である。